

HR活動

I 本年度の目標

生徒一人一人の自立に向かって、ホームルームの一員としての役割を自覚し、クラスの仲間との関わりを積極的に持つことで、生徒の3つの資質・能力（自己有用感、視野の広さ、主体性）を自ら育めるよう支援する。

II 本年度の重点目標（課題）と具体的方策

1. 自己および他者の個性の理解と尊重を促す。【1－（3）】

（1）ホームルームにおいて、話し合いを通じて他者の個性の理解を深めていく。

2. ホームルーム内の組織作りと自主的な活動を支援する。【2－（1）】

（1）学校行事におけるホームルーム内での自己の役割を自覚し、他者と協力しながら、目標の達成に向け集団形成を行う。

3. 心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立を促す【1－（2）】

（1）心の健康や薬物乱用などの害や対処法、ストレスへの対処と自己管理や規律ある習慣を身につける。

4. 生命の尊重と安全な生活態度の確立を促す【3－（2）】

（1）防犯を含めた生活安全や交通安全に関すること、種々の災害時の安全に関することを理解する。

III 業務分担（省略）

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・HR活動において、各自の役割を理解し、主体的に学校行事の準備に取り組みさせる。	・6月実施の文化祭に向け、クラス内での話し合い、事前の作業分担、当日の役割分担などを決める。	・クラス展示に対する来校者の評価（投票）、事後のアンケート
視野の広さ	・各種講話を通じて、生活安全、交通安全、薬物乱用などの害について理解を深めさせる。	・保健講座、防災訓練、避難訓練、薬学講座などを行い、外部講師の話や指導を受け、対処法などを身につける。	・事後のアンケート（通年）

B F

I 本年度の重点目標

- (1) 入学時の進路希望を実現するための学力養成を基盤とし、生徒が高い志をかかげ、多様な活動を通して進路を開拓していくための力を育成する。
- (2) 自己理解・社会理解の先にある「なりたい自分」さがしのサポートを、キャリア教育の視点に立って実施する。

II 具体的目標と具体的方策

① 設計する力の育成

【6-(1)】

- ▷ 基本的な生活習慣、及び学習習慣の確立・定着を支援する。
- ▷ 高校生活3年間を見通し、これからやるべきことを理解し、目標について考える機会を提供する。
- ▷ 自分の適性を知り、自己の生き方・将来のビジョンについて考える機会を提供する。

② 開拓する力の育成

【6-(3)】

- ▷ 模試を活用した学習サイクルを理解・実行し、確かな基礎学力育成のサポートを行なう。
- ▷ 全国にある国公立大学の強みや良さを紹介し、広い視野に立った進路選択の可能性を提示する。

③ 実現する力の育成

【6-(1)】

- ▷ 3年1月上旬に『第一志望届』を実施し、自らの進路実現に向けての確固たる信念を築き、ブレない自分作りのサポートをおこなう。
- ▷ これまで学校で学んできたことや自分の興味関心と社会がどのように結びついているかを意識し、学びの意欲を高める機会を提供する。

III 業務分担 (略)

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・高校生活3年間を見通し、これからやるべきことを理解し、目標について考える機会を提供する	・1年次における初期指導を通して学習面・生活面におけるレクチャーを充実させる	・進路アンケート(6月)
視野の広さ	・全国にある国公立大学の強みや良さを紹介し、広い視野に立った進路選択の可能性を提示する	・2年10月に実施される「学部学科説明会」で全国の国公立大を招くとともに、説明会も同時開催する	・学部学科説明会事後アンケート(10月)

生徒会活動

I 本年度の目標

1. 行事の、事務局員による主体的な企画・準備・運営
2. 市高祭をはじめとする諸行事に関する課題を1年かけて検討し、改善を図る

II 本年度の取り組み（課題）

- (1) 生徒会行事の準備に余裕をもって取り掛かる体制づくり 【2-(1)】
- (2) 自ら考えて作業をデザインし、取り組む 【1-(2)】
- (3) 各行事について、準備期間および当日における問題点や指摘されたことを書き留めてデータとして残し、年度末に確認する 【2-(1)】
- (4) 生徒会室の整理整頓 【1-(2)】

III 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・自ら考えて作業をデザインし、 取り組む	・事務局員同士の報告、連絡、 相談の徹底	・事務局員からの聞き取り（随 時） ・観察（随時）
視野の 広さ	・各行事について、準備期間お よび当日における問題点や指 摘されたことを書き留めてデ ータとして残し、年度末に確 認する	・行事終了ごとに会議を行い、 問題点や課題等を確認する ・年間スケジュールを作成し、 情報を共有する	・聞き取り（随時）

市高祭

I 本年度の目標

自分の得意なことを活かし、人を喜ばせることへの達成感を得ることで、自己有用感を高め、クラスや部活動等の仲間と協力することを通して、協調性と互いの価値観を尊重しあう心を育む。

II 本年度の重点目標（課題）と具体的方策

- (1) 昨年までの反省を活かした、よりよい活動をする。【2－(1)】
- (2) 計画的に作業を遂行できるよう、全体の進捗状況を把握させる。【2－(1)】
- (3) 市高祭を通して、自分たちでやり遂げる経験をさせる。【2－(1)】

III 業務分担（省略）

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・昨年までの反省を活かした、よりよい活動をする。	・昨年度の反省を部門ごとに確認させ、今年度改善すべき点を洗い出してから作業に入る。	・市高祭アンケートの記述確認 (6月)
視野の広さ	・計画的に作業を遂行できるよう、全体の進捗状況を把握させる。	・自分の担当する仕事以外の進捗状況も随時全体で確認させ、必要に応じて補助に入る体制を整える。	・市高祭アンケートの記述確認 (6月)

体育大会

I 本年度の目標

生徒の主体的な活動を通して協力の精神・連帯感・責任感を育成し、自己の体力と集団行動の実践を図る。更に生徒相互及び生徒と教師の理解を深め、帰属意識を高める。

II 本年度の重点目標（課題）と具体的方策

- (1) 体育大会の競技を通じて、クラスの団結を図る【2－（1）】
- (2) 健康な心身の保持増進を図る【2－（1）】
- (3) 地域の人から応援、信頼される雰囲気づくり【1－（1）】

III 業務分担（省略）

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・体育大会の競技を通じて、クラスの団結を図る。	・クラス対抗全員リレーや学年種目など大人数で行う競技の準備を体育の授業を通じて行う。	・体育大会アンケートの記述確認 (9月)
視野の広さ	・健康な心身の保持増進を図る。	・リレー種目などで肉離れや怪我をしないための体育の授業をおこなう。また、授業を通じて体力の向上を図る。	・体育大会アンケートの記述確認 (9月)

ナイトウォーク

I 本年度の目標

自分の参加生徒の安全確保を最優先して企画・運営にあたる。全教職員・保護者(P T A)が一致団結し、分担された業務を遂行する。

II 本年度の重点目標(課題)と具体的方策

- (1) 市高伝統の「質実剛健」と相互扶助の精神を養い、集団としての絆を強める。【2-(1)】
- (2) 41 k m を歩き通すことによって心身を鍛練し、困苦に耐えて物事を成就する喜びを味わう。
【2-(1)】
- (3) 暗夜の長時間歩行によって心を澄まし、自己の在り方・生き方について思いを深める。
【2-(1)】

III 業務分担 (省略)

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	市高伝統の「質実剛健」と相互扶助の精神を養い、集団としての絆を強める。	お互いを励ましあいながら歩く。	参加人数。
視野の広さ	暗夜の長時間歩行によって心を澄まし、自己の在り方・生き方について思いを深める。	歩くことに加え、安全に歩くためには、迷惑をかけない行動をとるには、緊急時の行動とはなど、いろいろな状況を考えて参加できる。	参加者 90%以上の完歩。 事故、重篤な怪我がなく終わるかどうか。

リーダー研修

I 本年度の目標

研修を通して以下の3点について追究し、自分自身のミッションは何なのかを考え、将来的にリーダーシップを発揮しながら自らのキャリアを形成していくことができる人材を育成する。

- ① 情熱を持って取り組めること（好きなこと）
- ② 世界一になれること（得意なこと）
- ③ 何か人のためになること

II 本年度の重点目標（課題）と具体的方策

- (1) 国際交流を通して、国際社会で活躍できる人材を育てる 【2-(4)】

国際交流行事に積極的に参加し、コミュニケーション能力と国際感覚を涵養する。

- (2) リーダーとして必要な資質・能力に関する研修を実施する 【6-(4)】

リーダー養成研修を9月より系統的に行う中でリーダーシップを涵養し、3月末の東北リーダー研修において成果を発揮できるようにする。

- (3) 信頼を生み、成果を出すチームを創ることができる人材を育てる 【1-(3)】

チームビルディング研修を通して、器としての組織を成長させ、組織の中で人材が自立的に成長し成果を出していくためのチームマネジメント手法を身につけさせる。

III 業務分担（省略）

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・リーダーとして必要な資質・能力に関する研修を実施する	・校内外の研修において、現在の課題を「自分事」としてとらえる経験を積み重ねる。	・研修のリフレクション ・研修レポート（3月） ・年度末アンケート（3月）
視野の広さ	・信頼を生み、成果を出すチームを創ることができる人材を育てる	・チームビルディングのアクティビティを通して、価値観の多様性と生かし方について学ぶ。	・研修のリフレクション ・年度末アンケート（3月）

海外生徒語学研修

I 本年度の目標

感性豊かな若い時期に海外を探訪し視野を広め、その土地の文化や歴史、さらには伝統、習慣に直接触れる機会を持ち、国際人としての素養を高める。

II 本年度の取り組み（課題）

- (1) 現地での学びを深めるための事前研修の実施 【6-(4)】
- (2) 「国際社会で活躍できる人」とはどういう人か、理解を深める 【2-(4)】
- (3) 姉妹都市である静岡市とオマハ市の「小さな親善大使」としての役割を果たす 【2-(4)】
- (4) パーティーや学校交流への参画により、企画力や交渉力を身につける 【6-(4)】

III 業務分担（省略）

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策（IIから転載）	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・現地での学びを深めるための事前研修の実施	・まずは自分たちが日本文化を知ることから始め、それを伝えられるように練習する	・研修レポートの記述確認（9月）
視野の広さ	・「国際社会で活躍できる人」とはどういう人か、理解を深める	・現地での職業人と「仕事」に関する対話をするを、参加生徒全員が行う	・研修レポートの記述確認（9月）